

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

音楽やダンスが大好きで、舞台の演出をすることが私の夢で、最新の機材が充実していてアートやデザインの技術を学ぶことができるので、同志社女子大学のこの学科で学びたいと思いました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

英語や社会の基礎作りをメインに進めました。英語では、単語と熟語の習得や長文に慣れるために短めの長文問題を解くことから始め、社会では基礎用語の習得と全体の流れをつかむところから始めました。それらを早期に取り組み、学校の授業で復習するかたちをとっていました。

〔夏休み〕

1学期で取り組んだ基礎をしっかりと固めていくようにしました。英語では単語、熟語の精度を上げたり、社会では、基礎用語や流れをくり返し頭に定着させました。そして、どの教科も易しいレベルの問題演習をしたりして、自分の現時点での学力、弱点を見極め、浮きぼりになったところを重点的につめていきました。過去問を初めて解いてみたのも、この時期でした。

〔2学期～入試直前〕

夏休みが終わると、応用問題も解くようになりました。英単語は、1500～2000語、熟語は1000語ほど目を通し、8割方覚えている状態で、社会は、通史が一通り終わった位の状態でした。10、11月くらいから古文に解りかかり、単語600語と一通りの古文常識を1、2ヶ月で頭に定着させました。11、12月にはどの教科も一通り終わって、残りの2ヶ月は、ただひたすら、今まで覚えた英単語・社会の用語と流れ、古文単語・常識を頭にたたき込み、忘れないように定着させていきました。過去問も12月、1月中に一通り解いて、最後の2週間は、「問題を解く」ことよりも、「基礎を忘れない」ことに重点をおきました。直前に問題を解くと変に焦ってしまうので、絶対にやらない方が良いです。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は、体を動かした方が勉強に集中できると感じたので部活は最後まで続けました。気分転換にもなるので続けられる時期まで続けた方が良いと思います。テレビやスマートフォンは、時間を決めないと延々と見てしまって無駄な時間を過ごしてしまうので、何々を終わってから何分間見る、というふうに気分転換程度に使用すると良いと思います。健康面では、体調が悪くなると、勉強や試験になかなか身が入らなくなってしまうのでマスクと手洗いうがい、ウイルス除去の薬品を持ち歩く...などを徹底しました。スランプにおちいてしまったら、気分転換をして、とにかく焦らないことが重要だと思います。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

2学期からは、集中できず、怠けてあったり、もう無理だと悲観的になってしまいやすい時期だと思います。でも、受験は、本当に根気強い、粘り強い人が勝つものだと思います。最後まで、気を抜かず、強い意志を持って受験に臨んでほしいと思います。上手く気分転換や休けいをはさみながら、自分の体と相談しながら勉強を頑張ってください。